

## (2) 各研修会の概要

### ◆令和7年度滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（みつめなおして、よりよく①）

1 趣旨 県で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進方策についての理解を深め、普及につなげる。

県全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について情報交換する。

2 主催 滋賀県教育委員会

3 対象 (1)「学校を核とした地域力強化プラン」事業主管課の担当者

(2) 各市町生涯学習・社会教育主管課担当者

(3) 各市町学校教育主管課担当者

(4) 学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、社会教育士

(5) 滋賀県内教職員（地域連携担当者）

4 日時 令和7年4月25日（金） 13:30～16:30

5 会場 滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1番1号）

およびオンライン

6 内容 ○開会行事

・事業説明（主な事業説明は事前に動画配信） ・CSアドバイザー紹介

○講演 ・演題：「学びをつなぐ」地域と学校の連携・協働をめざして

・講師：新谷 さゆり 氏（白川村教育委員会事務局 事務局長 教育研究所室長、元文部科学省CSマイスター）

○グループ別協議

・グループA 【対象者：教職員、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、社会教育士、プラン推進員等】

・グループB 【対象者：各市町プラン事業担当者、県CSアドバイザー】

7 参加者数 83名（来場40名、オンライン43名）

8 講演の概要 白川村が連携・協働を進めておられる背景は、人口減少や予測困難な社会情勢への対応である。目的は、子どもに「生きる力」を育み、住民に地域を創造する「主体的な意識」への転換を促すことである。コミュニティ・スクール等は、これらを実現し「将来の担い手（創り手）育て」を達成するための「手立て」とであると位置づけられていた。

目指す「担い手像」は、「ふるさとへの熱い想いを胸に村に貢献できる『創り手』」です。この創り手は、15歳までの「未来につながる経験の蓄積」を通じて育成される。特に「自己を鍛え伸ばす（挑戦）」と「人とのつながり（相手意識を高める）」という資質・能力の育成に重点が置かれている。

地域では、既存の活動に「何のため？（目的）」という問いを加える「ひと工夫」により、住民の「無意識を意識化」し、当事者意識を高める取組が進んでいる。「登校ふれあい週間」や「ちよいボラ」といった活動を通じ、大人が地域活動に真剣に取り組む姿を子どもたちに見せることを重視した結果、住民からは「地域の人が変わった！」という実感が生まれている。本講演で示された白川村の取組は、地域と学校が一体となって未来を担う人材を育むための、実践的かつ示唆に富むモデルであり、参加者にとって、今後の事業推進のための自信も高めていただくことができた。

9 グループ別協議の概要

(1) グループ協議A

・私にとって「学びをつなぐ」とは ～新谷様の講演から～

・私にできる「学びをつなぐ」とは （講演から学んだこと・取り入れたいこと）

(2) グループ協議B

・各市町の今年度事業実施状況や取組の重点等について

・事業の質的向上にむけての意見交流

10 参加者のアンケートより

○先進的とされる地域の実践においても、あくまで子どもが主体であり、大人が張り切りすぎていないかという目線が必要と認識されているところは大切であり、その認識のもと、いかに15歳までの間に何を身につけさせ

るかを考えておられるところは考えさせられるものであった。 【グループ別協議】

○CSアドバイザーの方にガイドいただきながらのグループ協議で、子どもと大人が共に学んでいくことの醍醐味を垣間見ることができた気がした。



【講演】



【グループ別協議】

## ◆令和7年度県立学校等コミュニティ・スクール推進事業研修会（みつめなおして、よりよく②）

- 1 趣旨 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演や事例発表を通して、県立学校等における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象 (1) 県立学校（中学校・高等学校・特別支援学校）教職員  
(2) 「学校を核とした地域力強化プラン」事業担当者  
(3) 市町立校園教職員  
(4) 学校運営協議会関係者、地域学校協働活動推進員、学校評議員等  
(5) 県および市町の社会教育委員  
(6) 社会教育士  
(7) 「地域連携担当者」新任研修受講者（選択研修）

4 日時 令和7年7月4日（金）13:30～16:30

5 会場 滋賀県庁 東館7階 大会議室

6 内容 (1) 話題提供 県立学校地域協働モデル事業について  
・綿谷 駒太郎 氏（愛知高等学校・愛知高等養護学校  
学校運営協議会委員、地域C o.）

(2) 講演

・演題：「県立学校のコミュニティ・スクール～みつめなおして、よりよく～」

・講師：廣瀬 志保 氏（山梨県立笛吹高等学校 校長、文部科学省CSマイスター）

(3) ワークショップ

テーマ：「学校運営協議会の重要性」

7 参加者 参加者 99 名（会場 56 名、オンライン 43 名）

8 話題提供・講演・ワークショップについて

(1) 話題提供

「県立学校地域協働モデル事業」の実践と地域コーディネーターの役割・重要性について、ご説明いただいた。地域コーディネーターが地域と学校のつなぎ役となり、双方の活性化のために活動されていること、学校、地域、行政が一体となり、事業に取り組む必要があることなどをお話しいただいた。

(2) 講演

笛吹高等学校では、「学校運営協議会」と「総合的な探究の時間」を教育活動の二つの柱として、学校の教育目標達成に向け、生徒の学びを深め、社会貢献に繋がる人材を育成するための連携体制を築いていることをお話された。また、具体的な実践事例やその成果などをご紹介いただいた。

(3) ワークショップ

綿谷氏のファシリテートのもと、熟議のロールプレイを行った。目標を明確化し、“yes andの精神”で対話をすることの重要性を実感する良い機会となった。

9 参加者のアンケートより

- ・地域コーディネーターとしての仕事内容を、わかりやすく説明していただけて良かった。学校が地域と一体となりつつあるのが、理解できた。
- ・生徒自身が興味・関心があることを中心に、とにかく様々な取組をされており、これだけのことができるのだと感心した。本校でも学校運営協議会の今後のあり方に対して、どうあるべきかを模索していたので、参考にさせていただきたいと思う。
- ・「熟議」の体験を今後の学校運営協議会に活かし、「対話」を大事にしていきたいと感じた。
- ・それぞれの立場で、率直な意見が出せました。テーマって大事だなと感じた。「yes and」を大事にしたい！



## ◆令和7年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（みつめなおして、よりよく③）

- 1 趣旨 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について講演や協議を通して、CSや地域学校協働活動の質的向上を目指す県市町・学校・地域関係者に対して、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、一層の一体的推進につなげる。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象 (1)「学校を核とした地域力強化プラン」事業担当者  
(2)学校運営協議会関係者、学校評議員 等  
(3)地域学校協働活動関係者（地域学校協働活動推進員、学習支援員、ボランティア等）  
(4)市町立校園教職員  
(5)県立学校および特別支援学校教職員  
(6)県および市町の社会教育委員  
(7)社会教育士  
(8)県教委事務局職員各市町「学校を核とした地域力強化プラン」事業担当者
- 4 日時 令和7年9月18日（木） 13:30～16:30
- 5 会場 滋賀県庁東館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号）およびオンライン
- 6 内容 (1)講演  
・演題：「人と学びをつなぐ～CSと地域学校協働活動の質的向上を目指して～」  
・講師：船坂 礼子 氏  
（瀬戸市教育委員会CS統括コーディネーター、文部科学省CSマイスター）  
(2)グループ別協議  
・テーマ：「地域・大人・子どものために、それぞれの立場でできること」
- 7 参加者数 105名（来場53名、オンライン52名）
- 8 研修会の概要

講演では、瀬戸市教育委員会CS統括コーディネーターの船坂氏から瀬戸市において9年間かけ実践されてきたコミュニティ・スクールの取組について話が合った。CSと地域学校協働活動を一体的に推進し、学校と地域が連携・協働し、パートナーとなって子どもたちの成長を支えていくためには、まず、ビジョンを共有していくことが必要である。さらに、地域と学校が連携して教育課題の解決に取り組むための土台を築く「熟議」では、地域住民、保護者、教職員、子ども、行政など多様な立場の人々が互いの意見を尊重しながら、共通の理解と合意を形成していく対話を通して、課題よりも強みについて話すことが重要である。講演を通して、CSと地域学校協働活動の一層の一体的推進につなげるために必要なことを知ることができ、これからの地域と学校の在り方について学びを深めることができた。

講演後、生涯学習課職員が学校運営協議会の一場面をロールプレイで表した。すでにCSの取組を導入されている方も、これから導入される方も、学校運営協議会の雰囲気を感じていただくことで、イメージを深めていただくことができた。

グループ別協議では、会場・オンラインともに5～6人のグループに分かれ、「地域・大人・子どものために、それぞれの立場でできること」をテーマに協議した。CSや地域学校協働活動への関わり方についてみつめなおしていただいたり、幅広い立場の方からの意見を聞くことで今後の取組に広がりをもっていたりする機会となった。

### 9 参加者のアンケートより

- ・入学説明会でCS関係者やPTAが説明する（時間を設けている）ことは、CSの周知にも繋がり、大変有効で興味深かった。
- ・いろいろな立場の方の話を聞いてよかったです。立場は違っても地域と学校のつなぎを考えていることは同じだと感じた。



## ◆令和7年度滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」成果報告会

1 趣旨 標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の発表や「地域とともにある学校づくり」に関する情報交換を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後も「みつめなおして、よりよく」していくための方策や地域と学校の在り方について、ともに学ぶ機会とする。

2 主催 滋賀県教育委員会

3 対象 (1) 地域学校協働活動 関係者  
(推進員、地域コーディネーター、地域学校協働活動リーダー、ボランティア等)  
(2) 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)関係者(協議会委員等)  
(3) 家庭教育支援員、家庭教育関係者、子育て支援関係者  
(4) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者(行政担当者等)  
(5) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員  
(6) 県および市町の社会教育委員  
(7) 社会教育士

4 日時 令和8年(2026年)1月16日(金)13:30~16:30

5 会場 滋賀県庁東館7階 大会議室

6 内容 ・事例報告

① 日野町立必佐小学校 必佐小学校地域学校協働本部

「地域とともにある学校づくり~コミュニティ・スクールとして一歩前へ~」

必佐小学校学校運営協議会 会長 服部 学 氏

必佐小学校校長 岩脇 俊博 氏、

② 高島市立今津中学校 今津中学校地域学校協働本部

「地域と学校のつながりから~ええやん今中~」

今津地域住民自治協議会 教育・福祉部会委員 是永 宙 氏

今津中学校校長 土永 昌 氏

・情報交換会

・講評・全体総括

「学校を核とした地域力強化プラン」推進協議会 座長 伊藤 照男 氏(滋賀県CSアドバイザー)

7 参加者数 137名(来場79名、オンライン58名)

8 報告・意見交流・講評の概要

必佐小学校は、令和5年度からコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりを進めている。地域の多数の団体が参画し、ふるさと学習や見守りあいさつ運動、学習支援などを継続的に実施。「子ども見守り部会」と「学び支援部会」による活動を軸にして、学校と地域が課題を共有し、具体的な取組を進めてきた。さらに一歩前を目指し、推進体制の充実や支援サポーターの居場所づくりに着手している。

今津中学校では、地域と学校の連携を生かした地域学校協働活動を進めている。その中心的な取組が、中学生と地域の大人が一対一で対話する「トークフォークダンス」である。安心して話し、聴くことを大切にしたいルールのもと、子どもが自分の思いや考えを表現し、大人は傾聴する姿勢を学ぶ場となっている。満足度は生徒・大人ともに非常に高く、相互理解の深化や子どもの意見が尊重され、交流が促進され、地域づくりへとつながっている。

9 参加者のアンケートより

- ・事例報告から、CS移行における経緯や実際の活動を伺い大変参考になりました。今後、地域とのつながりを広げていける方法を見出していきたい。
- ・情報交換会では、他の地域でどのように取り組まれているのかを知ることで、自分の学校に足りないものが分かった。どのように取り組んでいけばよいか見通しを持つことができた。
- ・「教師は風の人、地域は土の人」という言葉が、響きました。良い学校は良い地域で育つと再認識し、積極的に地域と関わっていこうと感じた。
- ・ただ地域の方をお願いするだけでなく、子どもたちの課題や現状からどのような姿に成長してほしいかを共有し、そのためにそれぞれの立場で何ができるのかを具体的に考えていく大切さを学ぶことができた。



## ◆「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会 開催報告

核家族化、地域のつながりの希薄化、コロナ禍等、家庭を取り巻く環境が大きく変わり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な状況が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭等、支援が届きにくい家庭への対応や児童虐待等、子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては家庭の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。

そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む関係者等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進方策等について学び、情報交換や情報共有することで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修会・交流会を実施する。

- 3回シリーズとして実施。1回目は行政担当者の共通理解を図る機会に、2回目はスキルアップを目指す機会に、3回目は県内の取組事例を知り自分たちに活かす機会とする。
- 受講対象者を広げることで、家庭教育関係者をはじめ、子ども食堂関係者やフリースクール関係者、社会教育士等にも幅広く参加いただき、滋賀県内の家庭教育支援のつながりをつくる機会にもなっている。

### 1. 家庭教育支援行政担当者研修会 (行政担当者の共通理解を図る機会)

日 時 令和7年5月16日(金) 13:30~16:30 参加者数:21名  
会 場 滋賀県庁北新館5階 5A会議室 (オンライン参加も可)  
内 容 ○情報提供:「滋賀県の家庭教育支援の取組について」  
滋賀県教育委員会事務局生涯学習課員  
○講演:「市町における持続可能な家庭教育支援にむけて ~プロジェクトマネジメントを学ぶ~」  
講師:上村 文子 氏 (滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー、家庭教育支援アドバイザー)  
○ワークショップ 「プロジェクトマネジメント作成」  
○グループ別情報交換

### 2. 家庭教育支援研修会 (スキルアップを目指す機会)

日 時 令和7年8月22日(木) 13:30~16:30 参加者数:88名  
会 場 米原市役所1階 コンベンションホール (オンライン参加も可)  
内 容 ○実践事例紹介:橋本市家庭教育支援チーム「ハスティア」の取組  
事例紹介者 :森田 知世子 氏、東 美樹 氏  
○感想交流・質疑応答  
○講演:「つながろう!家庭・学校・地域・行政・福祉 切れ目のない支援のために」  
講師:善野 八千子 氏 高野山大学文学部教育学科特任教授  
奈良学園大学名誉教授 (前)社会・国際連携センター長  
○感想交流・質疑応答

### 3. 家庭教育支援実践交流会 (県内の取組事例を知り自分たちに活かす機会)

日 時 令和8年1月22日(木) 13:30~16:30 参加者数:38名  
会 場 滋賀県庁東館7階 大会議室 (オンライン参加も可)  
内 容 ○実践事例発表  
「栗東市の家庭教育支援」  
・行政の取組  
栗東市教育委員会事務局学校教育課 指導主事 松田 愛 氏、指導主事 辻 顕史 氏  
・治田東小学校家庭教育支援チームの取組  
栗東市立治田東小学校 校長 横井 久美香 氏、家庭教育支援員 奥村 よし子 氏  
○助言・総括:上村 文子 氏 (滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー・家庭教育支援アドバイザー)  
○グループ別情報交換「家庭教育支援活動の成果と課題、さらなる充実に向けて」

※令和7年度参加者合計:147名

#### 《参加対象者》※1回目は行政担当者のみ

国庫補助事業実施および実施検討市町担当者、学校関係者、家庭教育支援員、家庭教育支援チーム関係者、各市町教育委員会家庭教育担当者、各市町教育委員会生徒指導・教育相談担当者、各市町児童福祉主管課子育て支援担当者、民生委員・児童委員、子育てサポーター、子ども家庭相談員、スクールソーシャルワーカー、子ども食堂関係者、フリースクール関係者、県および市町の社会教育委員、社会教育主事、社会教育士等